

新刊 Book reviews

□大場秀章：はじめての植物学. B6. 202 pp. 2013. ¥820. 筑摩書房. ISBN 978-4-480-68895-8. C0245.

大場さんの炉辺談話というところ。植物分類学の人の書く本は、種属の異同や系統関係、近頃では自然保護や生存競争に重点が置かれがちだが、本書では組織、その働き、体内で進行する化学変化、胚発生、貯蔵器官、次世代への受け渡し等々、分類学に先入観のある人達をまごつかせるような話しに満ちている。とはいうものの、高度なリクツはなく、従来は生理学や生化学の領域で話されるような話題を、手近な材料を利用していつの間にか話してしまう、という行き方である。葉身で行われる光合成や発芽の際の子葉の役割などは、常識的には心得ているだろうが、葉柄や胚軸でなにが起っているか、気にする人は少ない。知らなければ漫然と見過ごしてしまう植物の形やその働きを、あらためて見直す眼ができれば、自然の中へ出たときに、それ迄とは違う世界が開けることだろう。植物名を聞いて、そのイメージを頭に描ける程度の予備知識があれば、容易に理解でき、「分類学＝なまえ」という先入観に風穴をあけられた気分になるに違いない。(金井弘夫)

□谷村忠訓：山草百年. B5. 451 pp. 2012. 谷村忠和. ISBN no number.

表紙と背文字は上のようにになっているが、内扉と奥付は単に「山草百年」となっている。2013年で60号を記録する会誌「みねはな」をもつ山草会「みねはな会」の創立メンバーで、会長も役員も規則も作らない会でずっとリーダー格だった

谷村氏の、百歳を記念する作品集の予定だったが、谷村氏が2012年7月10日に亡くなられたため、はからずも追悼の作品集となった。年譜2頁、書誌は「みねはな」所載100編、その他の山草会誌所載22編、園芸誌所載26編、新聞記事5編、その他3編、これでほとんどの頁が埋まってしまい、あとは編集担当の森和男氏の、気合の入った文章がところどころに見られる。残部はあまりないようだが、森氏に問い合わせられたい。なお同時刊行の「みねはな」60号にも追悼文が6編あり、中でも由良(西山昌代)氏の文は印象深い。

(金井弘夫)

□清水敏一：小田原と北海道 辻村家の物語. A5. 112 pp. 2013. ¥1,500. 大雪山房. ISBN no number.

辻村家は小田原の資産家で、一族には実業家、学者、登山家、北海道開拓者など、名を残した者が多い。植物学関係では辻村伊助が知られている。本書では辻村伊助、辻村太郎、辻村直四郎、辻村もと子、辻村家の人たちと伊助周辺の人々と章を分け、それぞれの人物像を語っているが、伊助の章が24頁と最大である。伊助周辺の人たちの中には、武田久吉、山川黙の名が見られる。伊助は関東大震災の際、箱根の自宅裏山の崩壊のために、妻子四人と共に死去したことは、よく知られたことだが、遺体の発見が三年後の道路工事の際だったとは、私は知らなかった。地元の名家の一族としては、何か事情があったのだろうか。人名索引と主要人物年表(生没年のみ)がついている。大雪山房は著者清水氏の自宅で、連絡先は068-0835 岩見沢市緑が丘 5-166 Tel.0126-23-4570。

(金井弘夫)

88巻2号 正誤(2013) Errata in Vol. 88 No. 2 (2013)

ページ(Page)	カラム(Column)	行(Line)	誤(For)	正(Read)
103	abstract	↓2	Palla	J. Jung & H. K. Choi
103	left	↓2	Palla	J. Jung & H. K. Choi
107	right	↓6	Palla	J. Jung & H. K. Choi
107	left	↑5	Palla	J. Jung & H. K. Choi